

感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）

麻しん（はしか）は、8 月に引き続き減少しています。

現在までに 1400 例以上の報告があり、全国の約 14%です。10 代が過半数を占め、予防接種前の 0 歳児にも多く発症しています。また、患者全体の約半数が予防接種を受けていません。

腸管出血性大腸菌感染症（O157 等）は 7 例報告されています。

レジオネラ症は 4 例の報告がありました。1 月からの報告数は 21 例となり、多かった昨年とほぼ同じペースです。

2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 20 年 9 月 1 日～9 月 28 日

疾患名	市内流行状況	コメント
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		現在は少ないですが、例年、冬季にもピークが見られるので、今後の動向に注意が必要です。
手足口病		夏にピークを迎え、その後減少しましたが、現在は横ばい状態です。秋に小さな流行が見られることがありますので今後の動向に注意が必要です。

○：流行、△：やや流行、◇：散発、×：患者報告なし
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ **麻しん（はしか）**に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！
- ・ **インフルエンザ**に気をつけましょう。8 月下旬に市内の全寮制の訓練校でインフルエンザの集団発生がありました。予防には、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。
- ・ **腸管出血性大腸菌感染症**（O157 等）に注意が必要です。



生肉（生レバー等）や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱（75℃ 1 分間以上）をしましょう。また、手洗いを心がけ、特にトイレの後や搾乳体験の時など動物とふれあった後には、必ず、石けんを使用して十分に手洗いをしましょう。



4. 予防接種について

- ・ 麻しん（はしか）の予防接種を受けましょう。

平成 20 年 4 月 1 日から、1 期（1 歳）と 2 期（小学校入学前の 1 年間に加え、3 期（中 1 相当の年齢）、4 期（高 3 相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012 年までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。しかし、1 期、2 期の予防接種率は低水準で、依然集団感染等のリスクがあります。

また、横浜市では、緊急対策として、1 歳～高校 3 年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種（任意接種）を実施しています。 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

是非、この機会に接種を受けましょう！

- ・ インフルエンザの予防接種を受けましょう。

横浜市では、高齢者の方がインフルエンザ予防接種を受ける場合、接種費用の助成を行っています。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ_yobou.html

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html